



真冬の観光・イベント

ではあります。氷点下の中でも相対的な寒暖を判別できる人間の感覚器の適応力に我ながら驚いています。

さて、今月の初め、旭川冬まつりを楽しみました。始めに、駅前広場の「まちなか焚き火フェス」で、樹種の異なる樽ごと

昨年6月に着任してから、初めての旭川の冬を過ごしています。最も寒い時期を過ごした成果?として、最近では朝の通勤時に、氷点下10度を下回るような場合には、寒さが厳しいと感じる一方で、氷点下5度を上回るような場合には、今日はちょっと暖かいなと、肌感覚で氷点下の気温の差異を感じ取れるようになりました。いずれも風雪がほぼ無い状況において

て形を整えます。水像の手足や羽などの細長く繊細なパーツについては、本体とは別に作成した後、接合面を研磨してひしゃくで水をかけて本体に接着させる作業を素早く進める姿を見ることが

完成した水像は、日中に鑑賞する際の透き通った姿も優美で綺麗でした。夜間に見られる多色のバックライトで刻々と表情を変える姿が、幻想的でとても素敵でした。水像に様々な色の光を当てるテコレーションのアイデアは素晴らしい、映える水像と一緒に記念撮影をして喜んでいる国内

公園内では、「氷彫刻世界大会」の準備で芸術家の皆さんが水像を作成する様子を見ることができました。直方体の水のブロックを積み重ねて水像のベースとなる氷塊を作り、その表面にチョークで下絵を描いてチェーンソーや彫刻刀などで削っ

外の人々が数多くいました。適度な気温の中で水の加工を手際良く行えて、完成後も形状を安定的に保てる、歩行者天国の買物公園を利用した旭川ならではの地の利を活かした素晴らしい展示環境でした。

買物公園に続いて訪れた旭橋河畔のメイン会場では、幅120m、高さ12mの巨大な大雪像に圧倒されました。ポケモン雪像群や可愛らしい雪だるまたちも、子どもやインバウンドの観光客中心に好評を博していました。そんな中、私は、熱帯をすすりつつ、塩ちゃんこやもつ煮込みを楽しみました。どんな催しでもおいしい地元食を提供するマルシェが併設されるのは旭川のイベントの魅力です。

旭川駅構内で催された

「ASAHIKAWA AT station」では、お手頃な値段で、地酒や地ビール、ワインが提供され、様々なお酒の飲み比べを楽しむことができました。こうした気軽なちよい飲みスペースがあるのはありがたいです。特に、冬場は気軽に移動できる交通手段に制約が加わることもあり、現地に

冬まつりの期間中、男子バレーボール・SVリーグのヴォレアス北海道の試合を観戦しました。相手は、天皇杯決勝で惜敗したウルフドックス名古屋でした。この試合、セットカウント1-3で惜しくも敗れてしまったのですが、試合を間近で観戦できる会場のリック&スー旭川体育館で、選手

のサーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなどの大迫力のプレーを堪能できたほか、DJとダンスチームの掛け声やダンスに導かれてタオルを振り回し、ハリセンなどで手拍子して応援する会場の一体感がとても楽しく盛り上がることもできました。試合前に選手のウォーミングアップを見て、選手の体の柔らかさや体の幹の強さを垣間見ることができたことも興味深かったです。試合後のフットサードも合わせて、イベントでも盛りだくさんの期間もできるだけ各

て、ポテンシャルの高いチームです。地元旭川のチームをこれからも応援したいと思います。がんばれヴォレアス!

旭川・道北の冬の観光の魅力が益々高まるものと考えられます。冬の残りの期間もできるだけ各種イベントに参加して、地元の観光・イベントの魅力を探索していきたいと思

接戦でしたし、天皇杯準優勝という実績も含め



【佐藤弘康(さとう ひろやす)】1970年、宮城県出身。東北大学法学部卒。システム情報局企画役、決済機構局企画役、業務局企画役、発券局戸田発券課長を経て、2025年、旭川事務所長に就任。